

ニッポン 観光の景

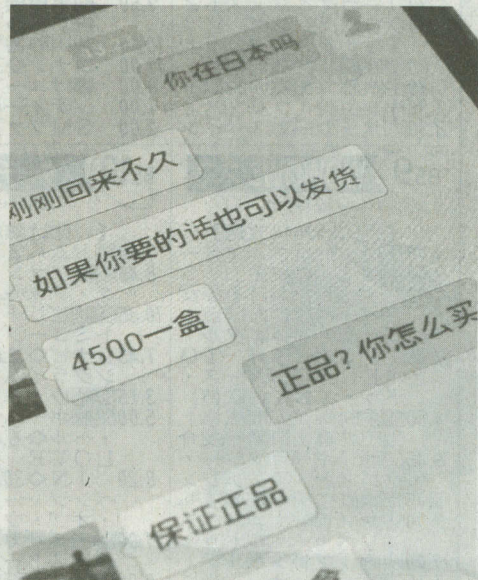
5

処方薬 広がる横流し

「注射薬を売ってほしい」。2年ほど前、中国人からの問い合わせが始まりだった。愛知県内のビルにある小さな美容クリニックには、それ以来、中国人観光客が毎月のように団体に訪れた。富裕層の女性が多かった。

目当ては、日本人の胎盤を原料にした「プラセンタ注射」。元々、肝臓病や更年期障害などの薬で、国内では医師の処方箋がなければ入手できない薬だ。だが、「美容に良い」「疲労が回復する」という評判が口コミやインターネットで中国にも伝わったこと、たちまち「爆買い」のターゲットになった。

男性院長(57)は、患者として診察した上で処方したと説明する。保険診療ではないため、症状が見あたらなくても処方できる。1人あたり2本を注射し、さらに1箱(50本)を約7万円で販売した。「帰国しても打ちたいと言



処方箋薬の販売をうたう書き込み主と、記者がやり取りした中国人向けSNSの画面

*書き込み主と記者のやり取り

記者 日本にいるのか
書き込み主 (中国に)戻ってきたばかりだ
同 もし必要なら発送する
同 1箱4500元(約7万円)だ
記者 本物か? どうやって買ったのか
書き込み主 本物だと保証する

われ、おみやげ代わりに売った」。院長はそう話す。ただ、向精神薬を中国人らに横流した東京都内の医師が昨年10月に逮捕されたのを機に、大量処方はやめたという。

へと人気が移ってきたという。そうした観光客から口コミで情報が広がり、今や日本製は中国メディアで「神薬」とも呼ばれる。中国のソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)やネット掲示板では、処方箋薬を欲しがる中国人を狙い、診察なしに「横流し」を持ちかける書き込みがあふれる。

観光庁によると、今年4〜6月に来日した中国人の74%が、医薬品や健康グッズを購入していた。

中国市場戦略研究所(東京)の徐向東代表によると、中国からの観光客は、最初は手軽な化粧品やサプリメントを買い求める人が多かったが、次第に市販薬、さらに処方箋薬

来た」と明かす。価格などの条件が合わず、購入はしなかったという。

記者も、あるSNSで処方箋薬を売ると書き込んでいた人物に対し、「本物か」と問うメッセージを送った。「本物だと保証する」と返信があったが、取材を申し出ると、返信は途絶えた。

警視庁が先月摘発した医薬品卸売会社の処方箋薬横流し事件では、中国人観光客が狙われた。

中国人ブローカーの男(28)(医薬品医療機器法違反で有

「爆買い」需要 付け入る業者

罪確定)は観光客からSNSで注文を受け、卸売会社から処方箋薬のプラセンタ注射薬や糖尿病治療薬、睡眠薬などを仕入れては、観光客らが滞在する空港近くのホテルなどに送っていた。卸売会社も横流しが発覚しないように医師にウソの受領書を書かせ、男が今年5月に逮捕されるまでの売り上げは、月約100万円に上った。

都内に住む中国出身の女性(34)は、中国の親戚宅で暮らす子供のために、男から処方箋薬の塗り薬を購入した。「中国の薬は効かないし、日本では病院の薬の方が効果があると聞いたから」と話す。買った薬は観光客に頼んで中国に運んでもらったという。

警視庁の捜査幹部は「事件は水山の一角で、大量の処方箋薬が中国に流れている恐れがある」と警戒する。

訪日観光で爆発的に拡大した日中間の人の流れは、医薬品の「闇ルート」まで広がってしまった。厚生労働省の担当者は言う。「非正規の市場が広がると、偽薬の横行などによる健康被害にもつながりかねない。不正流通の監視強化も検討しなければならぬ」